

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）		科目名	脱臼理論	
科目基礎情報							
開設学科	柔道整復科		コース名			開設期	前期
対象年次	2年次		科目区分	必修		時間数	30時間
単位数	2単位		授業形態	講義			
教科書/教材	教科書（柔道整復理論 -社団法人 全国柔道整復学校協会 監修-）に準拠する。						
担当教員情報							
担当教員	本澤 光則			実務経験の有無・職種	有・柔道整復師		
学習目的							
柔道整復師の業務である脱臼理論の理論から上肢の脱臼について知り、理解できるようになることを目的とする。主に総論、顎関節脱臼、鎖骨の脱臼（胸鎖関節・肩鎖関節）、肩関節脱臼と反復性脱臼、肘関節脱臼、肘内障、手指部の脱臼を主体に学び、臨床現場で判断と対応するために、発生機序、症状、合併症・続発症・後遺症、整復方法、固定法を学び他の外傷と鑑別する能力を養う。肩関節前方（烏口下）脱臼、肘関節後方脱臼など実際に頻度の高いものから患者への対応と注意点を学ぶことが必要である。							
到達目標							
柔道整復師として臨床現場で遭遇する上肢の脱臼を中心として学ぶ。外力の方向性から発生する脱臼の分類、同外力から他の外傷の合併及び鑑別、性別・年齢等における発生要因などを踏まえ理解する。また、弾発性固定肢位や症状からの脱臼と判断することを理解し、それぞれの脱臼における整復法の理解と整復法実技、また実施時の注意点を学び、臨床現場で実践しできる技術を獲得し、医療人としての資質を養うことを目的とする。							
教育方法等							
授業概要	実技および座学が中心となって行われる。実技ではグループを作成し、牽引のかかり方、方向性などを感じてディスカッションしながらより良いものにしていく。座学では発生機序、症状、合併症、後遺症、続発症、整復方法、固定法及び期間を学び理解するとともに、国家試験にも対応する授業にしていく。						
注意点	医療人としての資質をはぐくむため受講態度や私語などは厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めないと共に、公共交通機関の遅延等が予測される場合はそれに対応できるようにすること。1年生からの継続した内容が必要となるため、骨折・軟部組織損傷などの他教科も合わせた予習・復習が必要である。授業時数の4分の3以上出席しないものは定期試験を受験することができない。						
評価方法	種別	割合	備 考				
	試験・課題	100%	試験にて評価する				
	小テスト	0%					
	レポート	0%					
	成果発表 （口頭・実技）	0%					
	平常点	0%					
授業計画（1回～15回）							
回	授業内容		各回の到達目標				
1回	脱臼総論①		脱臼の定義から、性状による分類、程度による分類、関節相互の位置による分類について理解する。				
2回	脱臼総論②		脱臼数による分類、創部との交通の有無、発生時期に様る分類について理解する。				
3回	脱臼総論③		反復性、習慣性、随意性、恒久性脱臼の違いについて理解する。				
4回	脱臼総論④		脱臼の固有症状を主として理解すると共に、一般外傷症状との違いも理解する。				
5回	脱臼総論⑤		脱臼の整復障害因子について理解する。				
6回	顎関節脱臼		顎関節前方脱臼の発生、性差における発生の違い、特徴的な症状について理解する。				
7回	顎関節前方脱臼の整復法		口内法（ヒボクラテス法、ボルカース法）、口外法を理解する。				
8回	7週までの振り返りと確認演習		1回から7回までの知識が蓄積されているか確認する。				
9回	顎関節後方脱臼、側方脱臼		顎関節後方・側方脱臼における骨折の合併について理解する。				
10回	胸鎖関節脱臼		鎖骨の脱臼分類と胸鎖関節前方脱臼の発生原因について理解する。				
11回	肩鎖関節上方脱臼①		肩鎖関節上方脱臼の発生、症状と鑑別外傷について理解する。				
12回	肩鎖関節上方脱臼②		肩鎖関節上方脱臼の整復法と固定法、後遺症について理解する。				
13回	肩鎖関節後方脱臼、下方脱臼		肩鎖関節後方脱臼の発生と下方脱臼の発生原因について理解をする。				
14回	13週までの振り返りと確認演習		9週から13週までの知識が蓄積されているか確認する。				
15回	まとめ		後期全体のまとめ				